

唐櫃地域まちづくり構想

令和5年7月29日

からとの未来を考える会

目次

わたしたちが住むマチ 唐櫃 のこと	- 1 -
唐櫃の自慢	- 1 -
唐櫃地域がかかえる問題点	- 3 -
まちづくり構想＝地域の未来を描いたもの	- 5 -
「なんだか良いマチ 唐櫃」	- 5 -
まちづくり構想	- 6 -
Ⅰ 子育て環境	- 6 -
Ⅱ 高齢者の暮らし	- 7 -
Ⅲ 自然・里山環境の活用	- 8 -
Ⅳ 居場所・コミュニティの場	- 9 -
Ⅴ 地域団体のあり方・連携	- 10 -
構想実現に向けて ―エリア全体の活性化に向けた住民提案―	- 12 -
【参考資料】	- 14 -
唐櫃地域のコミュニティ イメージ図	- 14 -

わたしたちが住むマチ 唐櫃 のこと

神戸市北区、裏六甲エリアに広がる、わたしたちが住むマチ“唐櫃”。
田畑や茅葺屋根の古民家が広がり、吹き抜ける風が心地良い里山エリア。
高度経済成長期に開かれ、都会にも・六甲の豊かな自然にも近い住宅エリア。
唐櫃地域は、いろんな魅力や個性がギュッと詰まっているエリアです。
みなさん、唐櫃のどんなところが好きですか？
そして、どんな唐櫃の未来を想像しますか？

唐櫃の自慢

〔唐櫃の自慢 1 自然豊か〕

まず何と言っても、自然環境抜きには、唐櫃地域を語れないのではないのでしょうか？ 逢山峡は、裏六甲の大自然を身近に感じることができるだけでなく、川遊びを楽しむ人や、ハイカーが訪れる、隠れ家的なステキエリアです。

また、今でも奥山川では毎年ホタルが飛び交う、美しい自然が残っておりますが、その数は、昔と比べるとぐっと少なくなっています。今、改めて唐櫃の自然を考え、守り育てていく必要があるのではないのでしょうか。



逢山峡

〔唐櫃の自慢 2 地域内に駅が3つもある〕

唐櫃地域には、神戸電鉄が運営する神鉄六甲駅、唐櫃台駅、有馬口駅の3つの駅があります。これらの駅の歴史は古く、昭和3年に有馬口駅（当時は「唐櫃駅」）、神鉄六甲駅（当時は「六甲登山口駅」）、昭和41年に複線になり、唐櫃台駅ができました。また、30分あれば唐櫃から神戸・三宮まで行くことができるので、自慢のアクセス環境と言えます。



〔唐櫃の自慢 3 コミュニティ活動が盛ん〕

唐櫃地域には、自治会・婦人会・青少年育成協議会・ふれあいのまちづくり協議会をはじめとする様々な地域団体が活動し、春夏秋冬、いろんなイベント、交流活動が盛んに行われています。一方でなかなか住人の隅々にその活動が行き届かないといった課題もあります。

また、昔から言われる、「向こう三軒両隣の繋がり」も残っていると言え、良くも良くもご近所づきあいがある地域ではないでしょうか。



唐櫃台駅前広場でのイベントの風景

〔唐櫃の自慢 4 歴史あるマチ〕

上唐櫃・下唐櫃エリアを中心に、神社や寺院、史跡が多数残っています。

また、唐櫃地域ならではの昔話や言い伝えもあり、これらの文化・伝統は、学校での地域学習や地域のまち歩きイベントなどで活用されています。

古くから代々住み続けられているエリアとニュータウンエリアが融合している唐櫃地域ならではの特征ではないでしょうか。



まち歩きイベントの風景（上唐櫃）

唐櫃地域がかかえる問題点

〔問題点 1 人口減少・少子化〕

人口減少・少子化は全国的な問題ですが、唐櫃地域もその例外ではありません。

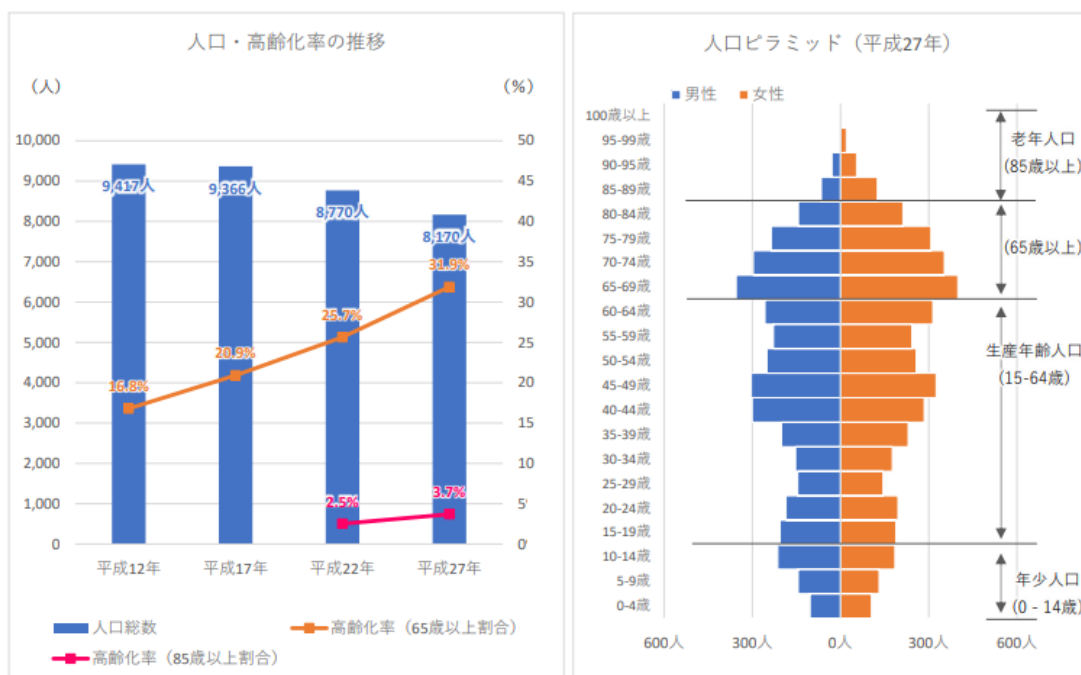
平成 12 年には約 9,400 人だった人口が、平成 27 年には約 8,100 人になっています。

また、中学生以下の児童の数も年々減少していることや、令和 9 年度には神戸北高校が廃校になることなど、唐櫃地域から子どもの数がどんどん減っています。

これらの問題は、全国的に起こっている問題だから仕方がないのでしょうか？

〔問題点 2 高齢化〕

昭和 40 年代に開かれた神戸市草創期のまちづくりの唐櫃台ニュータウン。かつては、たくさんの人口をほぼ同時期に受け入れ、町全体が賑わっていました。しかし、時間の経過とともに住民の高齢化が進み、様々な課題（以前は思いもしなかったような課題）が顕在化してきています。少子化、高齢化。私たち住民は、これからもみんなが住み続けたいマチにするためにはどうすればいいのでしょうか？



神戸市 HP「地域の基礎データ（統計版）唐櫃地域」より

〔問題点 3 坂道が多い〕

唐櫃地域は、山や田畑を切り開いた地域であることから、当然、坂道が多い地域です。

お買物、お出かけなど、特に高齢者にはとても坂道は堪えます。

一方で、一部の坂道には、愛称が付けられたりし、住民に親しまれている坂道もあります。

坂道は唐櫃地域の問題の 1 つではありますが、上手に坂道と付き合う方法を考えてみませんか？

〔問題点 4 空き家・空き地が増えてきている〕

ニュータウンエリアの課題の最たるものの1つ、空き家問題。

「空き家」と一言にいても、家ごとに空き家となった背景・経緯が異なります。また、上唐櫃・下唐櫃も同様に、空き家・空き地が増えています。

地域に空き家・空き地が増えると一体どうなるでしょうか？例えば、防犯面や空き家周辺の衛生面など住環境の悪化などが考えられます。また、地域に空き家・空き地が増えると景観を損ない、地域の活力の低下にも直結します。空き家・空き地問題は、国策等も踏まえ古家解体費用の一部行政負担等支援等は有るものの、明確な解決策や制度設計もされておらず、一筋縄では解決できない問題ですが、決して他人事ではない問題です。



空き家・空き地イメージ（神戸市 HP より）

〔問題点 5 市営住宅跡地・神戸北高校跡地の発生、唐櫃台駅のリノベーション〕

からとの未来を考える会の発足のきっかけとなった市営住宅跡地問題。また、令和4年11月に神戸北高校の統廃合が発表されました。これに伴い、近い将来神戸北高校の跡地問題も新たに発生することになります。唐櫃地域には、これらの広大な土地が数年内に発生することになりますが、この土地は一体どのように活用されるのが唐櫃地域の未来にとってより良いものになるのでしょうか？

また、神戸電鉄唐櫃台駅は、昭和41年に開業後多くの人に利用されてきましたが、駅舎の老朽化が進み、駅前広場とあわせてリノベーションが計画されています。唐櫃台駅は多くの人が行き交う拠点ということで住民の期待は非常に大きいです。



旧市営住宅

まちづくり構想＝地域の未来を描いたもの

なぜ、今、唐櫃地域はまちづくり構想を策定しようとしているのか。

市営住宅跡地問題をはじめ、子育て環境など唐櫃地域には多くの問題が芽を出してきています。

だけど、良い所（自慢できるところ）もたくさんあります。

そこで、地域の問題点、良い所、住みたい地域とするために住民が語り合い、そして住民が中心となり、地域の未来を描いた次のような構想を作成する必要があるのではないかと考えました。

- ・ 10 年後、どういった地域でありたいかが描かれたもの
- ・ 地域の良い所、今の問題点が描かれたもの
- ・ それらを踏まえ、住みたい地域とするためにはどうすればいいのかが描かれたもの

これらの観点から、約 2 年の歳月をかけて唐櫃地域の未来を描いた構想を作成しました。

「なんだか良いマチ 唐櫃」

子ども達が成長する地域の未来、また、お年寄りが地域で安心して暮らせる未来を考え、構想の共通理念として、「なんだか良いマチ 唐櫃」を描きました。

この共通理念のもと、唐櫃に集う人たち（住民・学生・訪れる人など）が、互いに学びあい、助け合い、支え合う。そして、世代を超えて唐櫃というマチを楽しむことができないか。

構想は以下のテーマから成り、マチのありたい姿、それを実現するための手段を記載しております。

- I 子育て環境
- II 高齢者の暮らし
- III 自然・里山環境の活用
- IV 居場所・コミュニティの場
- V 地域団体のあり方・連携

**まちづくりの主人公は住民です。
住人十色。みんなで一緒に唐櫃について考え、
より良い唐櫃を作っていきますか？**

まちづくり構想

I 子育て環境

「唐櫃地域ならではの子育て環境」 ～子どもが心豊かに育つまちを目指して～

〔背景〕

からと幼稚園の園児数が減少しています。昨今の子育てニーズや幼稚園・保育所の現状を踏まえ、行政に幼保一元化を提言してきた経緯もあり、住民の意見を聞きながら幼保一元化の必要性を検討していきます。

また、市住跡地に新たな住宅地が出来るとことも考えられ、唐櫃に人が来てもらえるように、唐櫃エリアの特性を踏まえながら子育て環境を整えていくことが必須であると感じています。唐櫃地域も子どもが減少していることを住民一人一人が意識を持ち、持続可能な子育て環境を目指すべく、一人でも多くこの取り組みに賛同してもらえる住民を増やして活動をしていきたいと考えています。

〔マチの将来像〕

- ・子どもが心豊かに育つまち
- ・豊かな自然環境を子どもたちに残せるまち
- ・教育環境が整っているまち
- ・子育てに利便性の高いまち
- ・子どもたちが将来住み続けたいと思うまち

〔将来像を実現するための具体的な取り組み〕

① 自分たちができること

- ・ 子育てに最適な環境の検討（幼保一元化等…）

自然の多い環境、住宅地にある教育施設の充実など、唐櫃の特性を活かした子育て環境を、住民の意見を聞きながら検討する。

- ・ 教育環境の充実

教育環境が進んだ街づくりを目指す。また、全世代で子育て支援が行える地域となるよう進めていきたい。地域づくりを子どもたちが参画できる環境を整える。

- ・ 子育て環境の周知、仲間を増やす

- ・ P T Aに周知をする。

小中学校、からと保育所、からと幼稚園、児童館利用の保護者にアンケートを取り、子育て世代の意見を多く取り入れていきたい。

- ・「みらいニュース付録」をみらいニュースと一緒に全戸配布し、子育て環境の取り組みを周知していきたい。

② 神戸市への提案

- ・ 幼保一元化への検討

唐櫃の幼稚園・保育園の現状を鑑みて、よりよい保育・教育環境の実現に向け、幼保一元化に向けた検討を進めていただきたい。

Ⅱ 高齢者の暮らし

「年をとっても元気で活躍できるまち」

〔背景〕

唐櫃地域の高齢化率は平成 27 年現在 65 歳以上 31,9%、85 歳以上が 3,7%と神戸市全体のデータを上回っています。世帯別では高齢者単独世帯と高齢夫婦世帯 983 世帯（28,9%）の増加が目立ちます。また、居住期間は、10 年以上と 20 年以上を合わせると 60%の人になり、住み続けている人の多いことがわかります。

しかし、住み続けていくうちに高齢になり、坂道が多く、商店や病院も少ない唐櫃地域の環境が、高齢者の暮らしの負担となっています。車がないと生活がしづらい背景もあります。

〔マチの将来像〕

1. 健康を維持できるまち、
2. 行きたいところに行けるまち、
3. 高齢者も元気で活躍できるまち、
4. 年をとっても安心して住み続けられるまち、を目指します。

そのためには、運動できる場の整備、健康・栄養などの情報が得られる場所。人とふれあえる場所。商店や駅前に行ける、コミュニティバスなどの交通手段がある。買い物のサポートが充実。見守りの充実。食事の提供。参加しやすい活動、場所。在宅で訪問医療、訪問看護、訪問介護を受けられる。身近に困ったときに入居できる施設。病院の充実。などの整備が必要です。

〔将来像を実現するための具体的な取り組み〕

① 自分たちができること

- ・ 今ある資源を調べる（地域の施設、地域の活動場所、地域の活動グループ・活動内容、行政の支援など）
- ・ 将来のために必要なものを考える
 - 例えば、公園に欲しい健康遊具（高齢者だけでなく全世代で楽しめる健康遊具）の検討
- ・ 将来のために必要な活動や場所を提案する
 - 例えば、坂道調査をして「坂道ウォーキングガイドマップ」の作成など
- ・ 朝食会や昼食会や憩いの場の開催など
- ・ ゆるやかな見守り活動

② 神戸市への提案

- ・ 公園の整備（運動遊具の設置など）
- ・ 公共トイレの設置
- ・ 必要な場所の手すり
- ・ 休憩場所
- ・ 歩きやすい道
- ・ 栄養ケアや口腔ケアなどのフレイル予防教室の開催
- ・ 健康管理できる常設の場
- ・ 高齢者を含め、全世代対象の憩える施設や公園の建設
- ・ コミュニティバスの継続

Ⅲ 自然・里山環境の活用

唐櫃の自然と歴史を守り継ぐ、「からとの森育（もりいく）」

〔背景〕

唐櫃は、南に六甲山地、北に帝釈山地があり、有野川と奥山川流域に広がる自然豊かなまちです。歴史的にも、由緒ある古い神社や寺院、史跡が多くあり、住民に歴史・文化の伝統を語りかけるまちでもあります。しかし、近年、ホテルの減少に象徴されるように、本来の豊かさが失われ自然が身近でなくなりつつあります。また、古き良き伝統文化もその継承が危ぶまれる状態となっています。さらに少子高齢化や一人暮らし世帯の増加、空き家対策などのまちの課題も抱えています。いまこそ唐櫃の自然と歴史を活かし、子育て世帯や高齢者が暮らしやすいまちの魅力づくりが求められています。

一方、地球規模では気候変動とならんで生態系の危機が叫ばれ、国際条約である「生物多様性条約」が発効し、国の「生物多様性国家戦略」が策定されています。神戸市は、先進的に「生物多様性神戸プラン」を策定し、今年には「KOBE 里山 SDGs 戦略」を公表、「生物多様性を守り、育て、人と自然の共生」をめざしています。しかし、世界的な生物多様性の損失は止まらず、社会への浸透も十分ではない現状です。現在、緊急的に保全地域の拡大が進められており、国・自治体と連携した地域住民や事業者、NPO などのさまざまな取り組みが求められています。

〔まちの将来像〕

〔基本方針〕

「生物多様性」の保全を目標に、都市中心部に近い「自然を大切にするまち」

六甲山北麓の恵まれた「里山環境を有する歴史文化のまち」

- 1) 誰もが、きれいな緑とホテルが舞う自然の中でいつまでも元気に暮らせ、子どもたちが自然から学び楽しめる人にやさしいまち
- 2) ふるさとの歴史と自然に育まれながら、神戸の都心に近く、仕事を変えずに里山暮らしができるまち
住民とこの基本理念に共感する人々との協働の取り組みを通じて、唐櫃が自然との共生に取り組む先進地域となって、魅力あるまちを次世代に守り継いでいく。

〔将来像を実現するための具体的な取り組み〕

① 自分たちができること（自分たちが取り組みたいこと）

- ・「森を育て、森が地域と人を育てる」ことを目的とした「からとの森育」の活動を行います。この活動は、1) 誰もが自然を楽しむことができる自然共生社会をめざす 2) 地域全体で多くの人の手でつくりあげる 3) 地域の自然、歴史を次世代に守り継ぐ、ことを目標（方針）にします。
- ・「森づくり」は、住民主体のさまざまな立場からのアイデア、提案をもとに計画・実行していきます。
- ・地元の地権者や林産組合の協力を得て、地域の植生からどんぐりや実生・稚樹を収集し、植樹・育成管理、モニタリングの活動を行います。
- ・専門家・学校関係者の協力を得て、環境学習や自然体験活動に継続的に取り組みます。
- ・行政等の支援を得て、運営管理体制を整え、定例会議の実施、宣伝広報・情報発信を広く行います。
- ・唐櫃の自然と里山環境のさまざまな課題に継続的に取り組んでいきます。

② 神戸市への提案

- ・「からとの森育」活動のための市営住宅跡地利用の承諾と、活動のための基盤整備（造成、活動拠点の設置）、運営管理への指導、多様な主体の参画と協働に人的・財政的支援をお願いします。
- ・造成計画・工事にあたっては、広く住民の提案・意見を反映し、住民との合意が図られるよう求めます。

（補足説明）「生物多様性」とは、さまざまな生き物が存在し、そこに多様な差異が存在することをいう。「生物多様性」の保全等とその「持続可能な利用」は、これまで人間の社会経済の営みによって失われてきた多様な生態系を回復させ、「人と自然の共生」、そして「持続可能な活力ある社会」を実現するものである。

Ⅳ 居場所・コミュニティの場

～「交流」と「生涯学習」が出来る居場所があるまちを目指す～

〔背景〕

- ① 全国的に人口減少、少子高齢化や一人暮らし世帯、核家族化が進行している中で、唐櫃地域も例外ではなく、減少し続けています。
- ② 住民のライフスタイルや価値観の変化等により、地域社会におけるつながりの希薄化。
- ③ 社会の状況が大きく変わってきており、それに伴い地域の困り事も多様化、複雑化してきており対応が難しくなっています。また子どもを取り巻く環境（子どもの貧困問題と教育格差問題）の変化といった家庭単位での解決が困難な課題が深刻化しています。

〔マチの将来像〕

- ① みんなの居場所があるまち
- ② 家庭をはじめ、「学校（教育機関）」や「社会（幅広い地域の様々なコミュニティ）」をつなぎ、連携をとってみんなが繋がっているまち
- ③ 共に学びあい、教え合い、助け合い、支え合いのあるまち
- ④ ひとりひとりが活躍できるまち
- ⑤ ボランティアが育つまち

〔将来像を実現するための具多的な取り組み〕

● 自分たちができること

(1)自分の居場所を探すプラットホームを作る

- ・子どもから大人まで地域の様々なコミュニティに積極的に参加し、全世代が交流出来る機会を作ります。
- ・生涯学習を学べる場所を作ります
- ・【子育て】【学問・語学】【音楽等の芸術・文化】【趣味・娯楽】【スポーツ・健康】など目的別で、老若男女各々が求める共通の関心や趣味を持った人たちの、サークルやコミュニティを増やします。
- ・自分を発揮出来る場、イベント（発表会・作品展、お祭り、マルシェ等）の機会を作ります。
- ・子どもの頃から地域を知り、地域のいろんな人と関わりふれあい、様々な活動を通して自分をはじめ、まわりの人やモノを「大切にする」事を学び育てる機会を作ります。
- ・自分達が住むまちが「楽しい」「好き」になり、唐櫃の良さや魅力を次世代（未来）の子どもたちへも繋いでいきます。

(2)情報発信を強化し「見える化」へ

- ・情報発信チームを作ります。
- ・従来のアナログとデジタルの共存をし、地域のコミュニティ活動の広報（PR）や情報の発信強化（SNS を活用）をし、周知させ、唐櫃地域や他の地域からの参加や利用の促進へとつなげます。
- ・今後のデジタル社会への定着を図るために、デジタル接触機会を増やし、地域社会がメリットを享受できるような環境（パソコンやスマートフォン講習の開催等）を作ります。

V 地域団体のあり方・連携

「連携の力で地域団体の持続可能性を高め、みんなで支えあうやさしいまちづくりを目指す」

〔背景〕

1. 地域団体について

唐櫃地域の地域団体は密接に連携し、福祉サービスの提供や環境美化活動、防犯・防災・交通安全活動など、広範囲の活動により住民の生活を支えています。

2. 自治会について

自治会は最も多くの住民が参加する団体であり、地域内の課題を解決し、住み良いまちづくりを目指して活動しています。また、役員が他団体の役員を兼任し、各団体へ寄付金の提供など、地域団体の土台となっています。

3. 地域団体の課題

各地域団体は役員の担い手が不足し、持続可能性低下のリスクとなっています。自治会は加入率が低下傾向にあり、将来的に持続できないリスクがあります。地域団体間の連携活動は、地域全体の課題解決のための活動計画を策定するレベルには至っていません。

〔まちの将来像〕

1. 安全で安心なまち（防災、防犯、交通安全、害獣対策など）
2. 子育て世代を支援するまち（認定こども園、子育てサークル、子供食堂など）
3. 高齢者も暮らしやすいまち（地域ケア団体の連携、コミュニティバスの運行など）
4. 住民の交流、コミュニケーションの場が豊かなまち（趣味・スポーツサークル、各種教室、健康セミナーなど）
5. 全ての世代が楽しめるイベントが盛んなまち（夏祭り、凧揚げ大会、卓球大会、グランドゴルフなど）
6. 衛生的で美しいまち（街並み、駅前・公園の環境美化、ゴミステーションの管理など）
7. みんなで助け合い、支えあうまち（各団体・自治会への参加、各団体間の連携・協力）

上記はすでに各団体が取り組んでいるが、魅力あるまちづくりの実現のために以下の取り組みが必要です。

① 地域団体活動の維持・活性化

魅力ある唐櫃にすることを共通の目的とし、各団体が役割に応じた活動を推進し、後継者が生まれやすい運営に取り組みます。変化への対応を図り、みんなが楽しく参加できるコミュニティ作りを推進します。

② 自治会活動の維持、持続可能性向上への取り組み

日常の生活と暮らしを守るため、みんなの力で支えあうことにより持続可能性を高め、地域の課題を解決し、住み良いまちづくりを継続・推進します。

③ 新たな連携の仕組みの構築による課題解決、まちづくり活動の推進

神戸市と団体が新たな連携の仕組みにより、地域全体の課題解決のため活動計画を策定・実行します。

〔将来像を実現するための具体的な取り組み〕

① 自分たちができること

- ・ 各団体間の連携のありかたの見直しにより、地域団体の総合力を向上させ、持続可能性を高めます。
- ・ 自治会の持続可能性を高めるため、あり方を見直しを進めます。
（事業活動の見直し/役員負担の軽減/情報伝達の迅速化、デジタル化推進、未加入者のゴミステーション

ョン利用有料化、唐櫃台自治連合協議会の機能強化/唐櫃地区の自治会間の交流推進など)

② 神戸市への提案

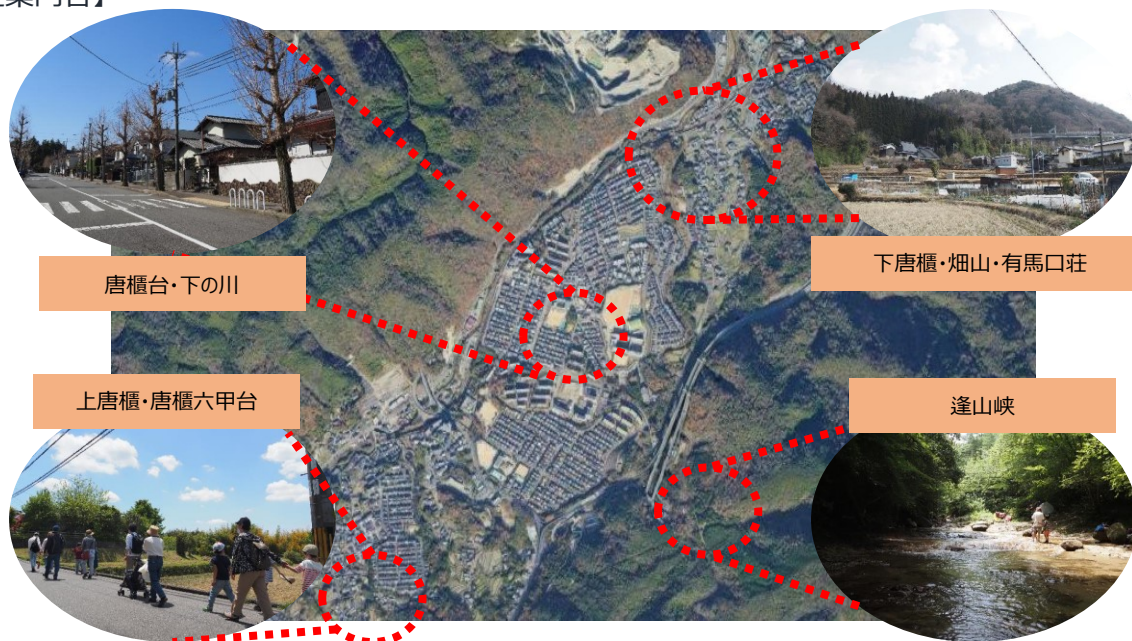
- ・地域コミュニティの活性化と持続可能性を高めるため、神戸市と地域団体の連携の仕組みの見直し
- ・市営住宅跡地の利用について
 - 新住宅地エリアに自治会立上げを条件化（自治連合協議会への加入も）
 - ゴミステーションゾーンの確保と設備構築を義務付け/二丁目向けゴミステーションエリアの確保
- ・自治会加入奨励条例の制定
- ・自治会加入促進活動など自治会活動に対する補助金の提供
- ・市営からと中央住宅に自治会組織の立ち上げ
- ・自治会のデジタル化推進に対する支援
- ・自治会に対する神戸市の依頼業務の見直し（自治会業務負担の軽減）

構想実現に向けて ―エリア全体の活性化に向けた住民提案―

私たち住民は、構想実現に向けて、市営住宅の跡地を活用

することなどにより、上唐櫃・唐櫃六甲台・唐櫃台・下の川・下唐櫃・畑山・有馬口荘園を含めた唐櫃地域全体での次のような施設や機能、まちづくりを提案します。

【提案内容】



No	タイトル	内容
①	新たな住宅地	・広い市営住宅跡地を活用した若者・子育て世帯が魅力を感じる住環境を実現
②	高齢者向け住宅	・高齢者向けサービス住宅の整備など、年を重ねても唐櫃地域で暮らせる住環境を実現 →若年層～高齢者が暮らしやすく、循環型のまちの実現
③	認定こども園	・魅力的な子育て環境を実現するため、幼保一元化の検討を進め、将来的には認定こども園の実現を提案します
④	店舗・カフェ	・食料品・日用品等の買い物環境の維持・さらなる充実や、カフェや食事を楽しめるところ
⑤	コミュニティセンター	・住民をはじめとする集いの場・居場所の整備、新たな活動支援の充実
⑥	歴史・自然エリア	・唐櫃地域の歴史や自然を中心とした情報・魅力発信拠点を整備
⑦	芝生広場・公園	・子どもから大人まで、誰もがくつろぐことができる憩いの場として、芝生広場や、サッカーなど様々なスポーツやお花見・ピクニックなど多目的に利用できる新たな公園を整備
⑧	森育エリア	・キャンプなど六甲山の自然環境を活かしたアウトドアイベントができる広場
⑨	アウトドアエリア	・広場はイベント等での利用にとどまらず、災害時には防災拠点としても利用
⑩	防災エリア	
⑪	公園リノベ【再整備】	・唐櫃地域に点在する公園のリノベーション（再整備）を検討・実現 →子どもの遊び場だけでなく、高齢者の健康維持といった観点も含めた再整備
⑫	駅舎・駅前リノベ	・唐櫃地域の玄関口となる唐櫃台駅・駅前広場のリノベーションを推進 ・駅前広場では、様々なイベントを企画し、地域内外の人が楽しむことができる空間を実現
⑬	からとんのマチ	・神戸北高校のキャラクター「からとん」をはじめとするキャラクターを活かしたまちづくり
⑭	コミュニティバス	・坂道が多い唐櫃地域の移動問題を解決するため、コミュニティバス導入の検討を進めます
⑮	空き家・空き地問題	・空き家・空き地問題の実態把握や利活用の検討などを進めます。

【構想実現に向けた活動推進体制など】

①住民ができること

- ・ 構想を実現するためには、住民が中心となって、行政・民間事業者と連携し、様々な取り組みを進めていく必要があります。
- ・ そのためにも、唐櫃地域の住民が互いに助け合い・つながることができる環境、また、「何かをはじめたい」「やってみたい」と思う人をサポートできるような仕組みを作っていきます。
- ・ 加えて、唐櫃地域には、様々な活動に取り組む地域団体があります。これらの地域団体の強みを活かし・互いに連携し合えるような仕組みを検討します。
- ・ これらの取り組みを通じて、持続的な活動とすることにとどまらず、新しい活動が次々に生まれるような地域づくりを進め、住民をはじめとする様々な人が、「なんだか良いな」と思えるようなマチを実現します。

②行政にお願いしたいこと

（市営住宅跡地に関して）

- ・ 住民提案の実現に向けた支援を引き続きよろしく願いいたします。
- ・ また、市営住宅跡地を売却する場合、無条件の売却ではなく、行政・住民が一緒にまちづくりを検討・協議のうえ、条件を付した売却を検討いただきますようお願いいたします。

（神戸北高跡に関して）

- ・ 上記住民提案はあくまで一例です。市住跡地とは異なり、行政から神戸北高跡の活用方針が示されておらず、また、何より生徒の皆さんが通学される間は、学校生活を最優先する必要があることから、神戸北高跡の具体的な活用方針は、今後の検討課題であると考えます。
- ・ そのため、引き続き神戸北高の皆さんとの連携を深め、唐櫃地域を盛り上げていきたいと考えます。
- ・ 一方で、今後、県・市で北高跡の具体的な活用方法を検討する段階で、改めて住民提案や住民の声も取り入れて検討いただきたいと考えております。
- ・ その際、ぜひ、「北高キャラクター からとん」の存続や、北高生の想い・足跡を唐櫃地域に残す取り組み、北高跡の具体的な検討をお願いします。

【参考資料】

唐櫃地域のコミュニティ イメージ図

